

(様式)

京都大学若手人材海外派遣事業 ジョン万プログラム  
研究者派遣プログラム

成果報告書

提出日：平成 25 年 12 月 5 日

1. 渡航者			
氏名	辨天 宏明	採択年度	平成 25 年度
部局	工学研究科	電話	
職名	助教	メール	
研究課題名	光電流計測原子間力顕微鏡による共役高分子光電変換の機構解明 Elucidation of Molecular-Level Mechanisms of Conjugated Polymer Photovoltaics with Photoconductive Atomic Force Microscopy		
海外渡航期間	平成 25 年 9 月 1 日～ 平成 25 年 12 月 1 日		
2. 渡航に関する情報			
渡航先	国名：アメリカ合衆国 大学等研究機関名：Department of Chemistry, University of Washington 研究室名等：Ginger Laboratory 受入研究者名：Professor David S. Ginger		
渡航期間中の出張 (渡航期間中に一時帰国や学会参加等の目的で短期の出張があった場合、その目的、行き先、期間を報告して下さい。) ※複数回に渡る場合、適宜行を追加して下さい。	該当なし		
3. ジョン万プログラムによる成果			
以下の項目について、渡航期間中の成果、または今後見込まれる成果を具体的にお書き下さい。 ページ数については増加してもかまいません。			
国際共著論文の執筆 (論文の題名、雑誌名、共著者名、刊行予定等)	渡航期間中に実施した研究成果がまとまり次第、国際共著論文を執筆予定。		

<p>更なる外部資金獲得に繋がる国際共同研究の立上げ／実施</p> <p>(国際共同研究の内容、実施計画、応募予定の外部研究資金等)</p>	<p>該当なし</p>
<p>国際研究ネットワークの新規構築／深化</p> <p>(参加した学会やその他の学術・交流組織、そこから構築／深化した研究ネットワークの内容等)</p>	<p>国際共著論文を執筆するため、渡航期間中に実施した研究の一部を、帰国後も受け入れ研究室と共同で継続している。論文執筆後も、学生の短期派遣などを通じて共同研究を継続、発展させていきたい。</p>
<p>在外研究経験による研鑽</p> <p>(渡航先機関で得た研究の展開方法、研究室の運営方法、教育方針・人材育成方法等)</p>	<p>博士前期（修士）課程、博士後期課程という区別は無く、ほぼ全員が5年間の博士課程を終えることを前提に進学するため、学生の研究意識はきわめて高い。研究室のスタッフは教授1名のみであり、准教授、助教は存在しない。現場の実験指導は博士研究員（ポスドク）に任されているものの、毎週のグループミーティングでは、教授が直接、研究指導を行っている。さらに、1時間程度の個別ミーティングは頻繁にあり、論文指導等も行われている。学生、ポスドク、教授間での意思疎通、情報共有が十分になされており、20名を超える学生を有しながらも1つの研究集団として強いまとまりが感じられた。学内の研究奨励制度は充実しており、学生が自ら応募し、研究費・学会旅費などを獲得することが出来る。学生はこれらの研究奨励制度を通じて、自身の研究活動や成果を発信する能力と習慣を身につけ、研究者としての自立意識を向上させることが出来る。</p>
<p>フィールド研究の進展</p> <p>(渡航先国で実施した実地調査や文献調査等の内容)</p>	<p>該当無し</p>